

No.129



昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター  
 ～人と技術で次代を担う経営体の育成～

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5  
 TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522  
 E-mail : tmnokai@pref.miyagi.lg.jp  
 URL : <http://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai>



きゅうりの環境制御技術セミナー（中田町）

### 「スマート農業を思い見る」

農業普及指導専門監 佐藤 浩也

最近、スマート農業という言葉をよく耳にします。直訳は、賢い農業。これは、AIやICT、ロボット等の先端技術を活用した農業の代名詞です。本県では、農業の担い手不足に対応するため、省力化や低コストを目指し、ドローンによる生育診断や自動走行トラクターによる無人作業、センサー付きコンバインによる収量・食味のリアルタイム計測等、先端技術の現地実証を進めています。これら技術の導入には、投資に見合う稼働量確保が課題となりますが、省力化や農業経験が浅くても熟練者並みの作業ができる、蓄積したデータを栽培管理に生かせる、などのメリットが期待されています。

田植機やコンバインが登場した時期を第一イノ

ベーション、今を第二イノベーションと呼ぶ人もいます。かつて、初めて田植機を見た人は、その性能に驚くと同時に、現場に本当に普及するのか疑いの目で見えていたのではないのでしょうか。そう考えると、今は驚くばかりの先端技術ですが、無人機械が田畑を行き交う光景が当たり前になる日もそう遠くはないのかもしれませんが。

現在、当管内においても、ドローンを活用した稲作の省力化、ICTを活用した施設きゅうりの生産性向上の実証を進めています。普及センターでは、これまでの経営にスマート農業を組み合わせ、さらに賢い農業経営が展開できるよう、皆様とともに技術の日進月歩に合わせた歩みを進めてまいります。



## 重点活動の紹介

### No.1 「いちご新品種「にこにこベリー」の生産振興」

今年度から本格デビューするいちご新品種「にこにこベリー」は、県主力品種「もういっこ」と、栃木県の「とちおとめ」を交配させて育成したいちごの新品種です。とちおとめに比べ収量は3割ほど多く、果肉は鮮やかな赤色、甘さと酸味のバランスが良いのが特長です。

当管内でも米山を中心に生産が始まり、普及展示ほを1箇所設置して、農業・園芸総合研究所等との巡回指導や現地検討会など、栽培技術向上に向けた活動を行っています。11月下旬から収穫シーズンを迎えますが、今後にもにこにこベリーを含めたいちご栽培技術の向上を支援していきます。



県育成いちご新品種「にこにこベリー」

### No.2 「地域ぐるみで取り組む新規就農者の確保・育成」

登米地域では毎年20人前後が新規就農しており、普及センターでは、新規就農者を確保するため関係機関と連携した就農相談や新規就農者を育成するため作物ごとの栽培技術、家畜の飼養技術、経営管理の習得支援を行っています。

#### ○新規就農者の確保（就農相談会、就農計画作成支援）

当地域では、新規就農希望者に対し各関係機関がアドバイスを行う「就農相談会」を市が主催し、今年は2回開催され、3件の相談がありました。普及センターでは就農希望者に対し、独立就農に向けた研修や就農計画の作成を支援しています。

#### ○新規就農者の育成（登米農業マイスター制度の活用支援）

今年は4人の新規就農者（にら、にんにく、きゅうり、りんご）が登米農業マイスター制度を活用し、先輩農家から栽培技術や経営管理等について指導を受けています。



登米農業マイスターによるりんごの個別技術指導

### No.3 「農用地の利用集積・集約化の推進」

人・農地プラン等を基本とした地域の合意形成による効率的な生産体制づくり、農地中間管理事業等を活用した担い手への農地集積による経営体質強化を支援しています。ほ場整備事業予定地区の東和町米川地区および南方町沼崎・太平地区では促進計画策定を、東和町内ノ目地区ではワークショップを支援しています。

また、農地の集約化とコスト低減を目指して30a区画ほ場を2haの標準区画に再整備する初期型ほ場整備再生プロジェクトの地区勉強会において、高収益作物の導入や大区画を生かして省力化を進めるスマート農業について説明しました。

さらに農地中間管理事業の地域コーディネーターと定期的に打ち合わせを行い、担い手への農用地の利用集積を進めています。



初期型ほ場整備再生プロジェクトの地区勉強会

## No.4 「都市との交流推進による中山間地域の活性化」

登米市津山町沢田集落では、地域共同によるとうもろこし栽培や草刈り作業などを通じ、地域の活性化に取り組んでいます。取組の一つであるとうもろこし栽培では、都市部から駆けつけた援農ボランティアの力を借り、6月2日に定植作業、8月4日に収穫作業を行いました。作業の合間に地元の食材を使用した昼食を食べたり、作業を行いながら都市住民との交流が図られました。

また、津山町の地域の交流拠点となっている道の駅内にある産直「ときめき野菜」の集客力の向上を図るため県事業を活用して専門家による指導を4回受けながら、通販パックの内容の見直しや産直名物品の販売方法の検討などを行いました。

普及センターでは、それぞれの活動が活発に進むように支援をしていきます。



沢田地区援農ボランティア

## 「令和元年度 新しく認定された農業士を紹介します！」



指導農業士  
はがゆきえ  
芳賀幸恵さん  
(登米町)

○経営部門 果樹

登米町の芳賀幸恵さんは、りんご1.5haと桃0.2ha、水稲1.4haを家族4人で経営しています。りんごや桃は食味と品質にこだわり、りんごのジュースも販売しています。自宅前の直売所には、仙台や石巻などの客が多く訪れ、もぎ取り体験も行っています。

農業大学校生や小中学生の体験学習も受け入れ、後継者の育成にも貢献しています。

また、地域の農業女性のリーダーとして、アグリレディースネットとめの役員を務めるなど、多方面で活躍されています。



芳賀果樹園直売所

## 女性農業者が働きやすい職場づくり研修会の紹介

令和元年8月22日（木）に、アグリレディースネットとめと登米農業改良普及センターが研修会を開催。女性農業者など20人が参加し、一関市の二つの農業法人を視察しました。大東町の農事組合法人京津畑やまあい工房は北上山地の山合いの集落にある女性だけで立ち上げた法人で、廃校となった小学校を活用してレストランや宿泊施設を運営していました。川崎町の有限会社かさい農産は施設・露地野菜と農産加工に取り組む農業法人で、役員の半数、社員のほとんどを女性が占めていました。いずれも女性のライフスタイルに合った職場づくりを実践しており、参加者は多様な働き方を提供できる農業の懐の深さを改めて実感したようです。



(農) 京津畑やまあい工房視察



## 登米市の元気ファーマー

とみ え 富 栄  
たかし 隆さん (米山町・和牛繁殖)

米山町の和牛繁殖農家の富栄隆さんは非農家出身ですが、10年間の農場勤務経験を経て、今年の1月に独立し、経営を開始しました。

3月に完成した牛舎は壁を設置しないなど極力簡素なものとし、部分的に自力施工するなど、低コストで建設しました。現在、母牛19頭を飼養しており、妊娠牛として導入した牛も順次分娩し、順調に子牛が生まれています。

「自宅からいつでも牛を眺められる環境で牛飼いに慣れて毎日楽しい。今は、新規就農者支援に力を入れている獣医師と密に連携し、低コストを図りながら健康な牛づくりを目指している。今後の新規就農者のためにも、低コスト新規参入のモデルになれるよう経営を確立していきたい。」と話してくれました。



おおたちめ たく や 大立目 拓也さん (米山町・和牛繁殖)

米山町の和牛繁殖農家の大立目拓也さんは、岩手県立農業大学校を卒業し、この4月から実家の法人経営に役員として参画しています。

高校生の時、周囲から「家でこんなに立派な経営をしているんだから、継がないのはもったいない」と言われ、自分のいる環境の素晴らしさに気づかされたことがきっかけで、就農を決意しました。

実家の合同会社TOMOTOファームは、昨年9月に法人化し、代表の父と二人で母牛30頭を飼養しており、大学校で学んだことを活かしながら現場での技術習得に励んでいます。

「子牛育成は思うようにならないことが多く、日々試行錯誤だがやりがいを感じる。今後は増頭も検討しているので、増頭しても繁殖成績に影響がないように人工授精などの技術を磨いていきたい。」と意気込みを見せています。



## 「令和元年度 宮城県総合畜産共進会」

令和元年9月12日、13日にみやぎ総合家畜市場（美里町）を会場に宮城県総合畜産共進会肉用牛の部が開催されました。県内各地から優秀な出品牛が集まる中、登米市からの出品が2部門で1席を受賞しました。その他の出品牛も多数上位入賞を果たし、2年連続で団体賞を受賞しました。

(主な入賞者) (敬称略)

区 分	地域	出品者
第3区(経産)	最優秀賞1席 (東北農政局長賞)	南方町 石川 信喜
第4区 (高等登録群)	最優秀賞1席	登米市 登米和牛育種組合 ・粕谷 邦夫 ・(有) N. O. A

